



竹島 勝昭
(市民連合クラブ)

新庁舎建設

ケヤキ大木を残す英断を

利用者の安全が第一

苦渋の決断で伐採

議員 市の歴史とともに歩み発展を見つめてきた唯一無二の存在であるケヤキの大木、市民の心のよりどころである存在を伐採してまで、新庁舎駐車場を拡大する必要はあるだろうか。工夫して残せる大木は残してほしい。

私は六月定例会後、広く市民の意見を聞く必要性があると判断し、アンケートを実施した。三千通送付し、二百六十八通の返信があった。その結果は、「保存すべき」八四%、「どちらともいえない」七%で、八割以上が伐採に反対であり、大木、古木を残してほしいという結果であった。その理由として、歴史的価値があること、旧市民憲章でうたわれている「みどりと

太陽のあふれるまち」のシンボルであること、駐車場は工夫次第でどうにかなるというものが多数を占めていた。一度伐採した樹木は二度とよみがえらない、大木の命は市長にかかっている。今なら間に合う。市長の英断を期待する。

市長 自然や市の歴史を物語る木々を大切にしなければならぬことは十分認識しています。一方、市民が安全、安心に生活できる環境を整備することも行政にとって大変重大な責務と思っています。駐車場は樹木の生育には条件が厳しく、年を重ねるにつれ樹勢が衰え、枝折れや倒木の危険が今後ますます高まってくることは明らかです。市内でもケヤキ等の倒木や枝折れ事故が毎年のように発

生し、他自治体では死亡事故につながった例もあります。また、先日の台風では、国指定天然記念物の法量のイチヨウの一部の幹が折れたほか、公園等でも倒木の被害が多数発生しました。

庁舎敷地内の大木の伐採については、市民や利用者の安全を第一に考えなければならぬとの思いで苦渋の決断をせざるを得なかったことをご理解いただきまますようお願い申し上げます。



大木を残す英断を期待

産後ケア充実で 安心の子育て環境を

支援内容の

充実に努めたい



氣田 量子
(自民公明クラブ)

については保健師や助産師が家庭訪問し、母親の心と体のケアや育児支援を行っています。

議員 少子化対策のためにも、産後ケアのさらなる充実を望む。産後ドゥーラという職業も広まっているが、当市の状況は。

健康福祉部長 母親の負担を軽くし安心した子育てにつながるかと認識していますが、現在のところ活用は難しいと考えています。

議員 切れ目のない子育て支援のため、子供の生年月日を入力すると予防接種の日程や健診等の情報、子育て情報が通知されるスマートフォン用十和田版子育てアプリを導入する考えは。

健康福祉部長 市独自のアプリ作成は考えていませんが、出産後の家庭訪問で配付している「すこやか手帳」は子育て情報や乳幼児健診等の問診票を添付しているので、今後より活用しやすくす

るための調査研究や、ホームページでさらに多くの情報を発信したいと考えています。

議員 高齢化が進み交通弱者がふえる現在、高齢者に配慮した期日前投票所への送迎や移動期日前投票所などの対策を検討してはどうか。

選挙管理委員会委員長 高齢者や障害者等、交通弱者への対応は必要と考えますが、県指定の不在者投票施設が二十カ所あること、移動支援対象の範囲及び経費や効率などから現時点では難しいものと考えています。



交通弱者が投票に行きやすい支援を

※産後ドゥーラ：産後支援の専門知識を持ち、出産後から子育てが軌道に乗るまでの母親を支える有資格者の女性